

同 志 社 大 学

2009 年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2010 年 3 月 15 日提出

所 属	職 名	氏 名
文学部	准教授	新 茂之
研 究 題 目	C. S. パースの Existential Graphs 第三部に関する形式的体系化の試み	
研 究 成 果 の 概 要	<p>(1) C. S. パースの「存在図形第二部」に関する再定式化の試み、『哲学論究』第 23 号、2009 年 7 月、1 頁-28 頁。</p> <p>【概要】 パースは、演繹的推理に関する図像的組織化の装置として「存在図形」という論理体系を編み出している。存在図形には三つの部門があり、パースは、それらを「第一部」、「第二部」、「第三部」と呼んでいる。本論の目的は、存在図形の中でも、特に第二部に着目し、そこに本来備わっているはずの狙いを顕わにして、第二部で認められる推論の規則とその過程について再定式化の方法を見いだすことである。そこで、本論では、同一性の線に関する図像的表現に焦点を絞り、パースの最初のもくろみに含まれていた、存在図形第二部の基本的な着想を闡明し、それを立脚地として、同一性の線に纏わる問題点の解決を図り、これまでの研究ではほとんど顧みられることのなかった変形規則の図像的意義を解明している。</p> <p>(2) C. S. パースにおける観念の意味としての「有用性」の問題、口頭発表、日本デューイ学会、椋山女子大学、2009 年 10 月。</p> <p>【概要】 本発表のねらいは、パースが観念の有意味性に関する基準として措定している「有用性」の内実を明らかにして、パースの「プラグマティズム」の性格を浮き彫りにするところにある。というのは、従前の研究では、パースの「プラグマティズム」に関して、「有用性」の問題が十分に追究されていないからである。本発表で論証したように、パースの「プラグマティズム」は、将来性を組み込む実際性に観念の意味を基づかせる実際の行為に着目しており、その要諦は、論理主義に基づく探究の脈絡のなかから導出される「有用性」の判定を将来の事例に俟つ可謬主義を堅持する実際主義に求められるのである。</p> <p>〔その他の研究〕</p> <p>(1) 「ケア」の関係的位相に関する倫理的解明、口頭発表、人間福祉学会、中部学院大学、2009 年 11 月。</p> <p>【概要】 本発表の目的は、福祉の営みを表す「ケア」という概念に照準を定め、そこに含まれている関係性の倫理的意味を解明するところにある。すなわち、わたしたちの倫理は、偶然が織りなす「ケア」の相互補完的な結びつきから生まれる絆の脈絡的固有性への依存によって成立しているのである。</p>	